

1 研究部の研修状況と反省

(1) 校長研究部

① 研修会の実施状況

回	期 日	会 場	研 修 内 容	参加人数
1	5・27	教育会館	○全体会 研究テーマと研究内容の共通理解と確認 ○小中学校別情報交換	134人
2	7・29	教育会館	○講話 ・演題「ひとり一人が輝く生き生きチームの創り方～職員の当事者意識が上がる目標設定の方法～」 ・講師 株式会社リーダーズクリエイティブラボ 代表取締役 CEO 五十嵐 剛 氏	139人
3	11・11	教育会館	○講話 ・演題「VUCA時代の学校安全： 安全管理と安全教育の融合を探って」 ・講師 静岡大学教授 村越 真 氏	137人

② 研究部の研究内容

ア 本年度の研究目標

超スマート社会（Society5.0）の実現に向け、先端技術が高度化して社会の在り方そのものが劇的に変化すると共に、予測が困難な時代になっている。

このような中、国は、学級編制の標準を引き下げることやGIGAスクール構想などの具体的な施策を取り入れながら、すべての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学びと協働的な学び」の実現を図る「令和の日本型学校教育」の実現を目指している。

浜松市においても、昨年度まで取り組んできた第3次浜松市教育総合計画「はままつ人づくり未来プラン」を踏まえ、本年度は第4次浜松市教育総合計画の初年度となり「描く夢や未来の実現」に向け学校経営を進めていく必要がある。各学校においては、校長のリーダーシップの下、変化への対応だけでなく、より一層、学校の特色や地域性を生かした学校経営を進めていかなければならない。一方、校長の大量交代期中で、校長職としての資質能力の向上が喫緊の課題である。浜松市校長（園長）育成指標にある「学校経営力」「管理運営力」「人材育成力」「連携協働力」の4つの力をつけていくことが重要である。

そこで、研究テーマを「将来を展望し、より質の高い学校経営を目指して～「はままつ教育」の発展に資する校長としての資質向上～」とし研修に取り組むこととした。

イ 研究内容

(ア) 第1回研修会

今年度の研究テーマや研究内容、活動内容について説明し、共通理解を図った。
また、小中学校別に分かれて、情報交換を行った。

(イ) 第2回研修会

株式会社リーダーズクリエイティブラボの五十嵐剛 CEO から御講話を伺った。企業に勤めていた経験、特にチームリーダーとしてプロジェクトを牽引されていたころの失敗から、リーダーが与える影響は、直接かかわっているメンバーのみでなく家族や周囲の人にも及ぶこと、言い換えればリーダーが良い影響を与えることは、多くの人が未来に希望をもって生きられるようになるという話を伺った。

また、経験から導き出された「4つの原則」<①メンバーの声を聴く②チームの目標を明確にする③「目標自分事度」を100%にする④トップダウンとボトムアップの融合>については、校長職と結び付けた話をしていただいた。特に①メンバーの声を聴く際には、傾聴する姿勢に感情をのせ「YES&MORE」(褒める&期待)に発展させることにより、メンバーのモチベーションを上げ、自分で考え自ら行動するようになるという話があった。風通しがよく、職員全員の心の安定性を高め、気持ちよく、効率よく働ける環境作りに努めていきたいと改めて感じた。



五十嵐 剛氏による講演

(ウ) 第3回研修会

静岡大学の村越真教授から御講話を伺った。1999年の玄倉川水難事故を機に、「危ないと分かる心理的メカニズムは?」「どうしたら防げるのか?」という問いを持ち、いつ死んでもおかしくない環境にある「南極越冬隊」での経験や幼稚園児の活動の観察から、VUCA時代の学校安全において、意識すべき次の4点を挙げられた。

①安全と自由の両立を図るというジレンマ②可視化されにくい空間での行動把握とリスク評価③制度的ルールと現場判断のギャップ④関係性の中でリスクを制御。つまり、南極の安全管理員も、園の保育者も「自発性と安全性」という両立しがたい価値の間で、観察・判断・介入を柔軟に行わなければならない。そして、PDCAサイクルの中で多くの事故は実行(Do)で発生するため、刻一刻と変化する状況で安全を確保するためには、OODA ループ「観察(Observe)→状況判断(Orient)→意思決定(Decide)→行動(Act)」を活用することが有効であるとのことであった。同じ活動場面でも、人によって観察(Observe)や状況判断(Orient)にズレが出るため、教職員に研修等を行い、互いの感じ方に違いがあることに気付かせ、リスクに対する「観」を高める必要があると感じた。



村越 真氏による講演

③ 研究の成果と課題

五十嵐氏、村越氏の講演から、リーダーとしての役割を再確認することができた。職員の当事者意識を上げることで組織として力量を高めていくことや、VUCA時代の学校安全を校長はどのように捉えていくかを学ぶよい機会となった。

この研修会を通して、校長の力量向上の一端を担えたことを、参加者のアンケートから推測することができた。来年度も校長の力量向上につながる講演を企画し、実りある研修会を推進していきたい。

(文責 校長研究部長 石山 知義)